



## 独身かつ一人暮らしの人は

### 既婚者より高血圧の有病リスクが高い

本学アジア疫学研究センターの三浦克之センター長が研究代表者をつとめる厚生労働省研究班（指定研究）の NIPPON DATA 研究より、独身かつ一人暮らしの人は既婚者より高血圧を有する割合が高いことが明らかになり、学会発表をした際にテレビ等で報道されました<sup>※</sup>が、この度、国際高血圧学会誌「Journal of Hypertension」2月号に掲載されましたので本件について広く周知いたしたく、報道方よろしくお願ひいたします。

※NHK 総合テレビ H27.1.19 21:00～ニュースウォッチ9、H27.1.20 14:05～情報まると

#### POINT

- ・2010年の国民健康・栄養調査に全国から参加した20～91歳（平均59歳）の男女2,623人を横断的に解析しました。
- ・婚姻状況／同居者の有無、就業状況、教育歴、世帯月間支出などの社会的要因と、高血圧の有病、高血圧に対する自覚の有無、治療状況、血圧コントロール状況との関連を分析しました。
- ・性別や年齢などの影響を調整後、独身かつ一人暮らしの群は、既婚群（同居者の有無問わず）と比べて、高血圧の有病リスクが76%高い値でした。
- ・就業状況、教育歴、世帯月間支出は、高血圧の有病との明らかな関連を認めませんでした。
- ・高血圧に対する自覚の有無、治療状況、血圧コントロール状況は、社会的要因との明らかな関連を認めませんでした。

（別紙）内容詳細 2枚

《詳細に関するお問い合わせ先》

滋賀医科大学 社会医学講座 教授  
アジア疫学研究センター長 三浦 克之  
TEL : 077-548-2191

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 企画（IR担当）課・阪井  
TEL : 077-548-2012  
e-mail : hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

## (別紙) 内容詳細

### 独身かつ一人暮らしの人は既婚者より高血圧の有病リスクが高い

#### ー平成 22 年国民健康・栄養調査参加者を対象とした追跡研究 NIPPON DATA2010 のベースライン時横断解析の結果ー

平成 22 年国民健康・栄養調査の参加者を対象とした追跡研究 NIPPON DATA (ニッポンデータ) 2010 のベースライン時横断解析において、独身かつ一人暮らしの人は既婚者より高血圧の有病リスクが高いことが明らかとなった。滋賀医科大学の佐藤敦氏らによるこの論文は、国際高血圧学会誌「Journal of Hypertension」2月号に掲載された。NIPPON DATA 研究は現在、厚生労働省研究班(指定研究)(研究代表者: 滋賀医科大学三浦克之教授)として実施されている。

分析対象者は、無作為抽出された日本全国 300 地区の一般住民に対して実施された平成 22 年国民健康・栄養調査の参加者(20 歳以上の男女)のうち、血圧情報および婚姻状況/同居者の有無、就業の有無、教育歴、世帯月間支出(等価支出)に欠損のない 2,623 人(男性 1,129 人、女性 1,494 人、平均年齢 59.0 歳)とした。血圧 140/90mmHg 以上または降圧剤服用者を高血圧有病とし、高血圧有病者において自覚無しの人を無自覚者、降圧剤非服用者を無治療者、さらに降圧剤服用者のうち血圧 140/90mmHg 以上の人をコントロール不良と定義した。社会的要因は、婚姻状況と同居者の有無により、既婚/独身かつ同居者あり/独身かつ一人暮らし、就業の有無、教育歴(中学校以下/高校/短大以上)、世帯月間支出(等価支出: 世帯支出を世帯人員数の平方根で除したもの)は 5 群に分類した。解析にはロジスティック回帰モデルを使用し、性、年齢、BMI(Body mass index)、喫煙習慣、飲酒量、運動習慣の有無、高コレステロール血症・糖尿病既往の有無、および食事からの 1 日あたりナトリウム・カリウム摂取量で調整した危険度(オッズ比)を算出した。

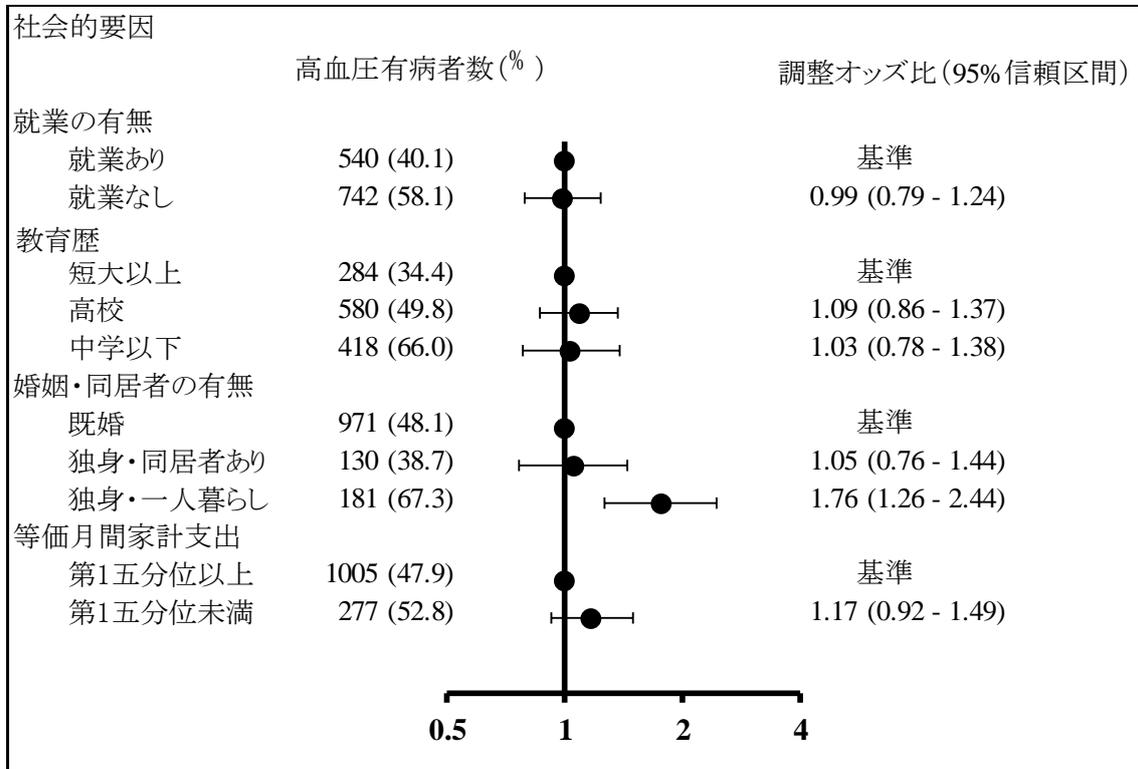
高血圧有病者は全体の 48.9%、高血圧有病者のうち無自覚者は 33.1%、無治療者は 43.8%であった。降圧剤服用者のうち血圧を 140/90mmHg 未満にコントロールできていない人は 61.2%であった。既婚群を基準とした独身かつ同居者あり群、および独身かつ一人暮らし群の調整済み高血圧有病オッズ比は、それぞれ 1.05(95%信頼区間 0.76-1.44)、1.76(95%信頼区間 1.26-2.44)であり、独身かつ一人暮らし群は既婚群と比較して 1.76 倍高血圧有病リスクが高いことが明らかとなった。就業の有無、学歴、および世帯月間支出(等価支出)と高血圧有病の有意な関連はみられなかった。また、社会的要因と高血圧無自覚、無治療、コントロール不良についても、明らかな関連をみとめなかった。

本研究より、独身かつ一人暮らしの人は既婚者より高血圧有病リスクが高いことが明らかとなった。本研究は社会的要因、とりわけ婚姻および同居状況と高血圧有病との関連を我が国においてはじめて明らかにしたものであり、独身で一人暮らしの人では高血圧予防のための生活習慣の注意が特に必要であると考えられた。

Satoh A, Arima H, Ohkubo T, Nishi N, Okuda N, et al.

Associations of Socioeconomic Status with Prevalence, Awareness, Treatment, and Control of Hypertension in a General Japanese Population: NIPPON DATA2010. *Journal of Hypertension* 2017 Feb;35(2):401-408.

**独身かつ一人暮らしの人は  
既婚者より高血圧の有病リスクが高い**  
(平成 22 年国民健康・栄養調査参加者を対象とした追跡研究  
NIPPON DATA2010 のベースライン時横断解析の結果)



社会的要因別の高血圧有病オッズ比。オッズ比は 性、年齢、BMI\*\*、喫煙習慣、飲酒量、運動習慣、糖尿病・高コレステロール血症・心血管病既往の有無、およびナトリウム・カリウム摂取量 (mg/日) で調整した値。

\*\*肥満度を示す体格指数, BMI(Body Mass Index)=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)